

発言議員	議案件名・要旨	答弁者
	<p>② 羽生市有機農業推進計画の策定及びその内容についての見解</p> <p>2. 財政健全化へ向けた対応について</p> <p>① 実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率の4指標算出及び公表の取り組み状況について</p> <p>② 平成18年度決算において4指標を試算する考えはあるか</p> <p>③ 貸借対照表・行政コスト計算書・資金収支計算書・純資産変動計算書の整備への取り組みに対する見解及び整備完了の年度について（目標の設定）</p> <p>④ 羽生市の資産管理状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公有財産台帳の媒体・金銭評価及び定期的な再評価の実施状況</li> <li>・ 売却資産の把握・情報開示の状況</li> <li>・ 資産売却計画の策定についての見解・資産売却についての基本的な見解</li> </ul> <p>3. 学校評価について</p> <p>① 評価の為の現状の把握の在り方について</p> <p>② 評価手法の在り方について</p> <p>③ 校内評価委員会の設置についての見解（設置は必須）</p> <p>④ 学校関係評価委員会の設置についての見解（設置は必須）</p> <p>⑤ 第3者評価についての見解</p> <p>⑥ 羽生市立小・中学校管理規則第35条学校評価に関しては、補足すべきであるとするがその見解について</p> <p>⑦ 学校評価の為の研修会等の開催について</p> <p>⑧ 学校評価については教育委員会の果たすべき役割は極めて大きなものがある。この為の体制整備についての見解</p> <p>⑨ 学校評価に関する情報公開の在り方及び学校運営総体における情報公開の在り方について</p>	<p>② 企画財政部長</p> <p>③ 教 育 長</p>
<p>2番 奥沢和明議員</p>	<p>1. 新たな産地づくり、特産物、ブランド商品開発について</p> <p>① イオンからの来客誘導について また、これらの来客者を見込んだ新たな産地づくり、特産物、商品開発についての具体的な方策、施策について</p> <p>② 日本一、県内一あるいは自慢できるものを整理し、積極的にPRし、活用してはどうか。</p> <p>③ 「いがまん」サミットを開催し、交流を深めながら「いがまんじゅう」を全国に配信してはどうか。</p> <p>④ ムジナモの自生地である三田ケ谷宝蔵寺沼の元風景の復活や、ムジナモを活用し、市の活性化を図ることについて</p>	<p>経済環境部長</p>
<p>11番 小野幸夫議員</p>	<p>1. 後発医薬品の使用促進について</p> <p>2. 羽生市にあった企業誘致について（提案）</p>	<p>① 市民福祉部長</p> <p>② 企画財政部長</p>
<p>15番 蜂須直巳議員</p>	<p>1. 道路橋梁の調査・点検状況について</p> <p>国交省は平成19年度から橋の耐用年数を延ばす、長寿命化促進事業を始めています。昨年8月の米国ミネソタ州ミネアポリスでの橋梁崩落事故は多くの犠牲者を出す大事故で世界中の関係者に大きな衝撃を与えました。「国交省によると高速道路、直轄国道の橋梁15,800橋（2006年データ）のうち、築40年以上の橋は約20%2,850橋で、定期的に点検必要に応じ修繕しているの で、崩落事故はあり得ない」との見解の様ですが、地方の生活道路については、十分な点検が行われていない状況なので、点検・修繕計画を作成するよう働き掛けて行くとの方針を示している。 本年1月5日付、埼玉新聞の記事では、県内70の市町村が管理する長さ15m以上の橋の8割が過去5年間全く点検されていなかった事が、県とさいたま市の調査で明らかになったとの報道がされており、更に点検を実施していた20市町の内、全ての橋を点検していたのは5市1町のみとの事。 羽生市には、対象となる道路橋梁は何箇所あるのか。 国・県が管理すべきものは、何箇所あるのか。 特に15mを超える橋は何箇所になるか。 これらの点検・調査の実施状況は。</p>	<p>都市整備部長</p>